

プログラム

1日目 2月8日(土)

第1会場(広島県医師会館 1F HALL)

開会の辞(会長挨拶) 10:25~10:30

シンポジウム① 10:30~12:00

共催:ブレインラボ株式会社
座長:白石 秀明(北海道大学 小児科)
中村 マリ子(広島大学病院 看護部 てんかんセンター)

小児てんかん診療に関わる多職種連携

【趣旨・ねらい】

一般に小児診療を考える場合、対象となるのは新生児から思春期頃までの年齢層であり、各年代において精神的・身体的に大きな違いが存在する。また、多くの場合症状を自ら詳述することが困難であり、検査・治療などの決定権もほとんどの場合保護者に帰結する。小児てんかん診療においてもこれらの条件は同様である。つまり、身体サイズの小さな、自分では発作症状を訴えることができない、決定権は他者にある対象を相手に診療する必要がある。また、小児てんかんは成人てんかんとは年齢依存性てんかん症候群の存在や予後の点などから病態としても異なる場合があり、個々の背景を考慮した検査計画の策定や治療方針の決定が必要である。これらを踏まえると、小児てんかん診療の多職種連携の在り方も成人患者とは異なる側面が存在する可能性が考えられる。本シンポジウムでは、小児てんかん診療をより良く行うために必要な多職種連携の実際について各専門職種の見地から議論してみたい。

(企画担当:広島大学病院 てんかんセンター、広島大学 小児科 石川 暢恒)

- S1-1** 遺伝性疾患および成人移行を必要とするてんかん患者に対する看護と多職種連携
北海道大学病院 看護部 押切 美佳
- S1-2** 入院病棟におけるチャイルドライフのかかわり
広島大学病院 小児科 藤原 彩
- S1-3** 小児てんかん診療に関わる多職種連携 小児科医の立場から
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 大谷 英之
- S1-4** 医療ソーシャルワーカーが取り組む成人医療移行の現状と課題
大阪母子医療センター 上田 美香

特別企画① 13:30～14:25

座長：飯田 幸治(広島大学病院 てんかんセンター、広島大学 脳神経外科)

国際協力機構(JICA)共同企画:てんかん診療連携の国際協力

【趣旨・ねらい】

てんかんを専門に診療できる医師はネパール全体で6-7名のみで、その過半数が首都カトマンズに集中しています。そのため、多くの患者を専門外の一般診療医が診療しています。さらに、周辺地域の中核病院にはてんかん専門医がおらず、手術が可能なセンター的な病院もありません。ネパール・カトマンズ市内にあるアンナプルナ神経研究所(Annapuruna Neurological Institute: ANI)では、1995年に広島大学での留学から帰国したDr Basant Pantを中心としたネパールで唯一のチームを編成しててんかん診療を開始しています。本企画では、医療や医療体制、患者側の様々な問題をかかえるネパールにおいてどのように診療連携を構築していくか、についてPant先生から講演していただきます。また国際協力機構(JICA)より草の根協力事業についての案内もいただきます。これらの活動を通して、本邦におけるてんかん診療ネットワーク構築への一助となることを期待しています。

(企画担当:広島大学病院 てんかんセンター、広島大学 脳神経外科 飯田 幸治)

SP1-1 開発途上国への技術協力 ～JICA草の根技術協力事業について～

独立行政法人 国際協力機構(JICA)中国センター 市民参加協力課 溝江 恵子

SP1-2 "Ideal Mutual Co-operation through Epilepsy Management"

アンナプルナ神経研究所 Annapurna Neurological Institute and Allied Sciences
パント・バサント Pant Basant(日本語での講演です)

シンポジウム② 14:35～16:05

共催：株式会社フィリップス・ジャパン

座長：中里 信和(東北大学大学院 医学系研究科 てんかん学分野)
酒田 あゆみ(九州大学病院 検査部)

包括的てんかん診療における臨床検査技師の活躍

【趣旨・ねらい】

近年、包括的てんかん診療を支える臨床検査は、診断精度が飛躍的に向上し、検査を支える臨床検査技師の検査に対する専門的な知識が求められている。てんかん治療を支援する臨床検査技師は検査部にとどまらず、診療科、手術室、病棟及び救命センター、脳磁図検査へとその活躍の場を広げている。将来的には、てんかんセンターに専属的に活躍できる臨床検査技師の育成と配置が課題である。本セッションでは、開かれた包括的てんかん診療において、実際に活躍されている専門技師の匠の技を教授いただき、これからのてんかんセンターにおけるチーム医療への関わりや検査室との連携など、実運用に沿った見地から将来的な展望など、今後のてんかん患者や診療へ貢献できる臨床検査技師の役割について議論したい。

(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学病院診療支援部生体検査部門 小山 由実)

S2-1 ビデオ脳波モニタリングでの臨床検査技師の役割

土浦協同病院 臨床検査部 小山 高明

S2-2 臨床検査技師による脳磁図の計測、解析および研究

東北大学病院 生理検査センター 石田 誠

S2-3 NeuroICUでの臨床検査技師の役割

TMGあさか医療センター 臨床検査部 福地 聡子

S2-4 てんかん手術の術中モニタリング

山口大学 脳神経外科 丸田 雄一

第2会場(広島県医師会館201会議室)

ランチョンセミナー① 12:15～13:15

共催：第一三共株式会社/ユーシービージャパン株式会社
座長：花谷 亮典(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 脳神経外科学)
入山 亜希(順天堂大学医学部附属病院 看護部)

てんかん外科治療 - 周術期のケアとリハビリテーション -

【趣旨・ねらい】

難治性てんかんに対しては種々の手術治療を行うことで、てんかん発作の緩和や消失を目指す。しかし、術後には片麻痺などの運動障害のほか、言語や記憶に関する高次機能障害や、例えば脳梁離断後の無言無動症などでてんかん手術に特有の後遺症が出現する可能性もある。さらに術後の疼痛や精神症状へのケアも考慮する必要がある。また、退院後の社会生活や職業への復帰をいかにサポートすることも重要である。これらの個々の術式や患者によって異なる問題点をよく理解した上で、効果的な周術期のケア・リハビリテーションを行うためには院内各部署、院外各機関との連携が必要である。今回、てんかんに対する治療・リハビリテーションの経験豊富な医師、作業療法士、言語聴覚士のそれぞれの立場からてんかん手術・周術期のケア・リハビリテーションに関してご教授頂きたい。

(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 吉川 浩平、市本 将也)

LS1-1 てんかん術後のリハビリテーション ～理学療法士の立場から～

近畿大学病院 リハビリテーション部 中路 一大

LS1-2 八王子医療センターにおけるてんかん外科治療への言語聴覚士の関わり

東京医科大学八王子医療センター リハビリテーション部 佐藤 麻衣子

LS1-3 成人てんかん外科手術後の精神症状に備えておくべきこと

東京大学医学部附属病院 精神神経科 谷口 豪

第3会場(広島県歯科医師会館 ハーモニーホール)

ランチョンセミナー② 12:15～13:15

共催：ノバルティスファーマ株式会社
座長：岡田 芳幸(広島大学 障害者歯科、広島大学病院 てんかんセンター)
中川 栄二(国立精神・神経医療研究センター病院)

てんかん患者の口腔ケア

【趣旨・ねらい】

口腔内を清潔に保つための口腔ケアは、細菌数を抑制し、歯や口の疾患予防や口腔内細菌による誤嚥性肺炎などの感染予防においてきわめて重要である。しかし、乳幼児や高齢者、あるいは精神発達遅滞や高次脳機能障害を伴う患者まで多岐にわたるてんかんにおいては、自己管理や歯科治療への協力が難しいケースも少なくない。さらに、歯科治療や口腔ケアに伴う刺激が発作を誘発する可能性は?、発作時の対応は?、など必要な知識も多い。最近、結節性硬化症(TSC)の治療に認可された薬剤では副作用として口内炎が高率に出現する。難治性てんかんを伴いやすいTSC患者においても口腔ケアの重要性がより増している。本セッションでは、実際にてんかん患者の診療にあたる歯科医・歯科衛生士・看護師から、てんかん患者の歯科治療・口腔ケアの問題点と対応などについてご教授頂きたい。

(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学病院7階西病棟 森本 奈美)

- LS2-1** てんかん患者における口腔ケアの問題点と対応 - 歯科医師の立場より-
東京都立心身障害者口腔保健センター 関口 五郎
- LS2-2** てんかん患者の口腔ケアの問題点と対応 看護師の立場より
医療法人道器 訪問看護ステーションつばめ 下條 美佳
- LS2-3** 結節性硬化症(TSC)における口腔衛生管理
岡山大学病院 医療技術部 歯科衛生士室 腫瘍センター 杉浦 裕子

ポスターセッション プログラム

1日目 2月8日(土) 広島コンベンションホール

第4会場(広島コンベンションホール エントランス)

一般演題P1 16:20~17:05

院内連携・てんかんセンター構築

座長：中野 直樹(近畿大学医学部 脳神経外科)

- P1-1** 新病院におけるてんかんモニタリングユニット設計からオープンまで ~安全性を中心に~
TMGあさか医療センター てんかんセンター看護科 小畑 孝仁
- P1-2** てんかんセンター相談窓口の現状と課題
岡山大学病院 総合患者支援センター 石橋 京子
- P1-3** 筑波大学附属病院てんかんセンター開設までのあゆみ
筑波大学附属病院 てんかんセンター 脳神経外科 増田 洋亮
- P1-4** 東大病院てんかんセンター 脳神経外科病棟の取り組み
東京大学医学部附属病院 看護部 大下 愛
- P1-5** てんかんセンター化による小児てんかん看護の実践能力の変化
広島大学病院 てんかんセンター 4階西病棟 奴留湯 かほり
- P1-6** てんかんセンターにおける臨床検査技師の役割
徳島大学病院 てんかんセンター 平岡 葉月

一般演題P2 17:05~17:50

地域連携

座長：長谷川 直哉(国立病院機構 西新潟中央病院 てんかん科)

- P2-1** 離島地域のてんかん外科普及における課題
鹿児島大学 脳神経外科 岩元 博史
- P2-2** 茨城県におけるてんかん診療連携と三次診療施設の構築
土浦協同病院 金子 聡
- P2-3** 地方におけるてんかん診療の実態調査 -自治医科大学卒業医師に対するアンケート調査-
自治医科大学 脳神経外科 大谷 啓介
- P2-4** 徳島県内の医療機関に対するてんかん診療アンケート分析
徳島大学病院 てんかんセンター 泉 千恵
- P2-5** 病院間ビデオ会議システムを用いた遠隔脳波カンファレンス
奈良県立医科大学 脳神経外科 田村 健太郎
- P2-6** 徳島県におけるてんかん地域診療連携整備事業の活動状況
徳島大学病院 てんかんセンター 多田 恵曜

一般演題P3 16:20～17:05

看護1

座長：小林 真穂(自治医科大学付属病院 看護部)

- P3-1** てんかんの検査時に睡眠導入剤を使用する子どもの親の不安軽減
～親のニーズを踏まえたパンフレットの作成を目指して～
国立病院機構 西新潟中央病院 看護部 山崎 萌
- P3-2** 側頭葉てんかん患者の術前オリエンテーション理解の傾向
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 若杉 知代乃
- P3-3** アンケートを用いた、てんかん患者のケアの理解
市立伊丹病院 看護部 出原 節子
- P3-4** 脳外科病棟におけるてんかん患者の精神症状への対応
東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部 松崎 ゆかり
- P3-5** 難治性てんかん患者の転倒転落予防策実施についての追跡調査
東京都立神経病院 看護科 清水 莉奈
- P3-6** てんかん看護の統一化を目指して
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 東館6階病棟 土田 桃子

一般演題P4 17:05～17:50

看護2

座長：草間 桃子(TMGあさか医療センター てんかんセンター 看護科)

- P4-1** 統一化されたてんかん発作観察記録の使用前後の観察内容の変化について
近畿大学病院 看護部 植松 美穂
- P4-2** てんかん発作時記録の質向上への取り組み ～観察シートを用いたシミュレーションを通して～
鹿児島大学病院 看護部 B棟3階病棟 塚脇 洋平
- P4-3** ICUにおけるてんかん重積患者の管理マニュアルの効果 ～活用推進に向けた取り組みについて～
東京都立神経病院 看護科 林 史
- P4-4** 長時間ビデオ脳波モニタリング中に必要な環境整備および発作対応：シミュレーションの効果
東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部 鈴木 はるの
- P4-5** 新人看護師に対するモニタリング患者のてんかん発作対応OSCEの実践と有用性の検証
自治医科大学付属病院 看護部 脳神経センター 脳神経外科病棟 小林 真穂

一般演題P5 16:20～17:05

画像・検査

座長：須永 茂樹(東京医科大学八王子医療センター 脳神経外科)

- P5-1** 巨大SEP条件と通常SSEP条件で測定した波形の比較検討
国立病院機構 宇多野病院 臨床検査科 出村 彩郁
- P5-2** 広島大学病院高度救命救急センター脳波モニタリングの運用と課題
広島大学病院 検査部 豊田 祐佳吏
- P5-3** 脳磁図解析における評価指標についての検討
東京大学医学部附属病院 検査部 谷口 寛
- P5-4** 意識障害患者における抗glutamic acid decarboxylase(GAD)抗体の関与と
高力価群での臨床的特徴の検討
南奈良総合医療センター 脳神経内科 小原 啓弥
- P5-5** 脳梁膨大部にDWI高信号を示し、診断に難渋した側頭葉てんかんの一例
東京都立広尾病院 脳神経外科 肥後 拓磨
- P5-6** ASLにて発作時の局所脳血流増加を認めた症候性部分てんかんの3例
てんかん専門病院ベートル 笠原 秀敏

一般演題P6 17:05～17:50

リハビリテーション・心理

座長：足立 耕平(長崎純心大学 人文学部 地域包括支援学科)

- P6-1** てんかん患者の就労を困難にさせる要因 ～入院患者の就労状況調査からみえてきたこと～
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 伊藤 さやか
- P6-2** てんかん既往のある小脳失調型橋本脳症の構音障害に対する音声分析の有用性の検討
国立病院機構 宇多野病院 リハビリテーション科 荻野 智雄
- P6-3** 衝動的に攻撃行動を呈する男子が、心理療法により、感情のコントロールを学び、
適切なコミュニケーションを検討した1例ーバウムテストの継時的な変化に注目してー
国立病院機構 西新潟中央病院 リハビリテーション科 荒井 祐生
- P6-4** 発作消失後に心因性非てんかん性発作を発症した左側頭葉てんかんの2例
東北大学大学院医学系研究科 てんかん学分野 小川 舞美
- P6-5** 難治性てんかんを呈する患者に対するVineland-II適応行動尺度による継続的評価の試み
順天堂大学医学部 脳神経外科 布施木 景子
- P6-6** 発達障害の特性別評価法(MSPA)とWAIS-IIIを用いた成人てんかん患者の社会生活支援方法の検討
国立病院機構 宇多野病院 リハビリテーション科 金崎 裕美

一般演題P7 16:20～17:05

薬剤管理・患者指導1

座長：國井 尚人(東京大学医学部附属病院 脳神経外科)

- P7-1** 作業療法士によるてんかん疾患教育 ～てんかん学習プログラムMOSESの取り組み～
国立精神・神経医療研究センター病院 精神リハビリテーション部 須賀 裕輔
- P7-2** てんかん患者への生活指導における工夫点の抽出 ～チーム医療の視点から～
国立病院機構 奈良医療センター 上西 弘泰
- P7-3** 精神科外来における集団教育プログラム「エピスクール」実践報告
埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック 倉持 泉
- P7-4** ウェブサイトに求められる医療情報:てんかん疾患情報サイト「てんかんinfo」閲覧記録の解析
ユーシービージャパン株式会社 ニューロロジーメディカルサイエンス部 渡邊 悦郎
- P7-5** 脳卒中後てんかんの指導を開始して ～効果的な指導を考える～
徳島大学病院 看護部 野崎 夏江
- P7-6** 生活リズムの変化により重積状態となった焦点性てんかんの一例
洛和会音羽リハビリテーション病院 脳神経内科 高田 こずえ

一般演題P8 17:05～17:50

薬剤管理・患者指導2

座長：秋山 倫之(岡山大学病院 てんかんセンター)

- P8-1** 出生直後より大田原症候群を発症した患児に対する在宅指導
-退院後の生活をイメージした指導を行って-
埼玉医科大学病院 看護部 吉野 杏菜
- P8-2** 医療的ケアが必要なてんかんをもつ子どもの母親への退院支援
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 檜垣 奈美
- P8-3** 子どもの薬剤内服に伴う苦痛軽減を目指して
～医療者が抗てんかん薬の味を把握することによる気づき～
東京都立神経病院 看護科 石井 里奈
- P8-4** ペランパネル投与例における血中濃度測定の有用性に関する検討
近畿大学病院 薬剤部 石原 慎
- P8-5** ペランパネルの治療継続に関わる影響因子の探索
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 白谷 有香

一般演題P9 16:20～17:05

てんかん診療の発展・未来

座長：多田 恵曜(徳島大学病院 てんかんセンター)

- P9-1** 2017年ILAEてんかん分類・てんかん発作型分類の有用性の検討:当科での使用経験
国立病院機構 奈良医療センター 脳神経外科 佐々木 亮太
- P9-2** 人とシステムのOne team ～発作自動検知システムとその運用における課題～
東京大学医学部附属病院 看護部 矢野 綾香
- P9-3** 心拍変動解析に基づくてんかん発作自動検知の試み
東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野 宮島 美穂
- P9-4** 多極シャツ型心電図電極を用いたR-R intervalの計測精度の検証
東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野 芹野 真郷
- P9-5** 心拍変動を用いたてんかん発作予知と頭蓋内脳波の検討による予知機構の解明
京都大学大学院 情報学研究科 合田 飛

一般演題P10 17:05～17:50

長時間ビデオ脳波モニタリング

座長：溝渕 雅広(社会医療法人医仁会 中村記念病院 神経内科)

- P10-1** 脳波モニタリング検査のクリティカルパスを導入後の効果
国立病院機構 長崎医療センター 愛合 美穂
- P10-2** 他病棟での長時間ビデオ脳波モニタリング検査に関する課題 ～アンケート調査から～
山口大学てんかんセンター 村上 菜摘
- P10-3** てんかんモニタリングユニット入院精査における患者満足度と背景因子の関係
慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 藤川 真由
- P10-4** 長時間ビデオ脳波モニタリング中でのてんかん発作時の対応に関する調査とシミュレーションおよびOSCEの取り組み
徳島大学病院 東病棟5階 看護部 平野 愛子
- P10-5** 肝性脳症の病状病態把握に脳波モニタリングが有用であった1症例
国立病院機構 岡山医療センター 小児科 土屋 弘樹
- P10-6** 高齢者に潜むてんかん ビデオ脳波モニタリングの解析より
東京女子医科大学東医療センター 脳神経外科 久保田 有一

一般演題P11 16:20~17:05

てんかん外科・周術期管理

座長：松尾 健(東京都立神経病院 脳神経外科)

P11-1 Beyond VNS therapy

東京大学医学部附属病院 看護部 阿宮 奈穂

P11-2 てんかん患者の社会参画におけるてんかん外科の可能性

東京医科歯科大学 脳神経外科 橋本 聡華

P11-3 内側側頭葉てんかん患者におけるてんかん外科手術前後の前頭葉機能評価

岡山大学病院 医療技術部 検査部門 諸岡 輝子

P11-4 海馬からのてんかん性放電が乏しかった海馬硬化症の1例

徳島大学病院 てんかんセンター 藤原 敏孝

P11-5 薬剤抵抗性てんかんにおける頭蓋内電極留置術を安全かつ整容にも配慮して行っている最近の工夫

岡山大学病院 脳神経外科 佐々木 達也

P11-6 合併症を減らすためのてんかん手術体位における当院の工夫

順天堂大学医学部附属順天堂医院 てんかんセンター 菅野 秀宣

一般演題P12 17:05~17:50

施設内教育

座長：下竹 昭寛(京都大学大学院医学研究科 臨床神経学)

P12-1 ISO15189に準じた脳波技師の教育についての取り組み

岡山大学病院 医療技術部 黒川 友里

P12-2 てんかん病棟におけるPNESテキストの利用による専門知識の共有化を目指して

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 青柳 政彦

P12-3 てんかん学習会の運営に関する見直し

国立病院機構 奈良医療センター 大谷 堯正

P12-4 新人看護師に対するてんかん発作時対応の教育

中村記念病院 看護部 てんかんセンター 藤村 奈津子

P12-5 院内LANを活用したビデオ脳波検査・判読と教育への取り組み

TMGあさか医療センター 脳卒中・てんかんセンター 中本 英俊

P12-6 結節性硬化症診療育イニシアティブセミナー報告

順天堂大学医学部附属順天堂医院 てんかんセンター 菅野 秀宣

2日目 2月9日(日)

第1会場(広島県医師会館 1F HALL)

シンポジウム③ 8:45~10:15

共催：日本光電工業株式会社

座長：木下 真幸子(国立病院機構 宇多野病院 脳神経内科)

澤 恭弘(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 医療連携福祉部)

てんかん患者の生活・就労支援

【趣旨・ねらい】

てんかんは慢性疾患であるため、その長期的治療においては患者が自身のてんかんについて正しく理解することは重要な要素で、てんかんと向き合い前向きに治療を継続するきっかけとなり得るが、その正しい知識を十分に受けている患者は決して多くない。患者、家族、その関連者にてんかんについて正しく説明することは医療従事者の責任である。またてんかんの治療では「発作」を止めることが最優先されるが、不安や抑うつなどの心理面の問題への配慮も重要で、また就労や就学などてんかん患者の抱える個々の社会的背景についても配慮することはてんかん診療に必要な不可欠である。本セッションはこのようなてんかんに関連する根本的な課題を各専門家にそのアプローチを発表していただき、てんかん患者の治療に際してあるべき医療従事者の関わり方を議論したい。(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学脳神経内科 音成 秀一郎)

S3-1 成人てんかん患者の社会参加における神経心理検査の有用性

国立病院機構 宇多野病院 リハビリテーション科 金崎 裕美

S3-2 てんかん患者の生活支援の考え方

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 長田 英喜

S3-3 てんかん患者への生活支援 ～入院から地域・社会への継続した支援活動～

京都大学医学部附属病院 看護部 前田 美早記

S3-4 てんかん患者の就労の現場から ～疾患ではなくその人自身を見てもらうために～

医療法人福智会 就労移行支援事業所くうねる 小山 愛

特別企画② 10:25~11:25

座長：丸山 博文(広島大学 脳神経内科、広島大学病院 てんかんセンター)

山内 雅弥(広島大学副理事 広報担当)

てんかん患者さんを皆で支える社会をどう築くか

～当事者・企業・行政・メディアの立場から～

【趣旨・ねらい】

てんかん患者さんを取り巻く環境には様々な側面があります。神経系疾患の中では極めて頻度の高い疾患ながら、年齢層や症状が多様であるため、神経系を担当する複数診療科のはざまにある比較的「特殊」な疾患として扱われてきました。医療の問題のみならず、てんかんという疾患に対する誤解・偏見とともに、教育、雇用、福祉、運転免許など患者さんが直面している問題も多く、社会全体が取り組んでいく必要があります。本企画では、誰もがてんかんを発症する可能性がある超高齢時代を迎え、てんかんのある人が安心して暮らせる社会を築くために何が必要かを、当事者、企業、行政、メディアの幅広い視点から考えます。

(企画担当:広島大学 副理事 広報担当 山内 雅弥)

SP2-1 患者として思うこと

日本てんかん協会広島県支部 三上 千香

SP2-2 中電ウイングオフィスサポートセンターのてんかん患者の就労について

中電ウイング株式会社 オフィスサポートセンター 原田 裕史

SP2-3 広島県のてんかん対策への取組について ～てんかん地域診療連携体制整備事業～

広島県健康福祉局 田中 剛

SP2-4 てんかん患者さんを皆で支える社会をどう築くか ～メディアの立場から～

中国新聞社 編集局 文化部 衣川 圭

会員報告会 11:30～11:45

シンポジウム④ 13:15～14:45

座長：神 一敬(東北大学大学院 医学系研究科 てんかん学分野)
原 稔枝(国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター)

みんなのためのビデオ脳波モニタリング中の安全対策と発作対応 ～応用編～

【趣旨・ねらい】

難治性てんかんの診断と治療を行うてんかんセンターで、長時間ビデオ脳波モニタリング検査は欠かすことのできない検査です。発作の記録を主な目的として、昼夜持続で長時間行われるこの検査では「安全性」と「精度」が求められます。病院で行う検査であるからには安全に行うことが大前提ですが、普段とは異なる環境での発作では思わぬ転倒や外傷が生じることもあります。また確実に発作を記録するためには電極がはずれないための工夫や、患者様の不安を軽減させるような工夫が必要になってきます。さらに発作に実際に立ち会った場合には何を観察すればよいのか、ポイントを知っておく必要があります。今回は各施設での実際の取り組みについて、小児編・成人編・頭蓋内電極脳波編の3つに分けて紹介したいと思います。またモニタリング中によくある問題などについて、症例を呈示しながら対応策についても検討していきたいと思います。

(企画担当:国立病院機構長崎医療センター 小児科 本田 涼子 先生)

S4-1 成人の長時間脳波の実際

国立精神・神経医療研究センター病院 看護部 三嶋 健司

S4-2 子どもと家族への関わり方を工夫して

国立病院機構 西新潟中央病院 看護部 篠田 まなみ

S4-3 頭蓋内電極脳波モニタリング検査時の配慮

九州大学病院 検査部 酒田 あゆみ

S4-4 発作後朦朧状態に対する対応

国立病院機構 奈良医療センター 伊東 亜紀子

S4-5 発作による外傷、併存する記憶障害・不安への対策

東北大学病院 看護部 原子 夏美

S4-6 ビデオ脳波モニタリング・頭蓋内電極脳波前リスク管理を考える

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 石原 己緒光

閉会の辞 14:45～

第2会場(広島県医師会館201会議室)

ランチョンセミナー③ 12:00~13:00

共催：エーザイ株式会社
座長：三國 信啓(札幌医科大学医学部 脳神経外科学講座)
小山 雅美(東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部)

てんかん診療の未来と今後の発展

【趣旨・ねらい】

従来、てんかん診療は脳波検査による診断と、薬物や開頭によるてんかん手術を中心に治療が行われてきました。しかし、近年、新規抗てんかん薬や埋め込み型の刺激装置、脳波記録装置などのデバイスの開発・発展とともにてんかん患者を取り巻く環境は劇的に変化してきております。時に医療従事者のみならず、患者家族や職場、学校においても、これら最新のてんかん診療に関する知識を共有する必要にせまられることも実際に起こっております。

本セミナーでは、これらのてんかん診療の進歩にも対応すべく、現在行われているてんかん発作の診断・治療に関わる最新の知見を紹介し、今後行われるであろう未来のてんかん診療とそれに伴う医療の連携について議論したいと思います。

(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学脳神経外科 片桐 匡弥)

- LS3-1 てんかん支援におけるソーシャルワーカーの取り組み
国立病院機構 西新潟中央病院 てんかん診療支援コーディネーター 吉田 大輔
- LS3-2 IoTと機械学習を用いたウェアラブルてんかん発作予知システム
熊本大学 大学院先端科学研究部 山川 俊貴
- LS3-3 てんかん外科治療のこれから
自治医科大学 脳神経外科・てんかんセンター 川合 謙介

第3会場(広島県歯科医師会館 ハーモニーホール)

ランチョンセミナー④ 12:00~13:00

共催：大塚製薬株式会社/ユーシービージャパン株式会社
座長：宮地 隆史(国立病院機構 柳井医療センター 脳神経内科)
佐々木 京子(三原赤十字病院 看護部)

災害時における多職種連携 ~てんかんに関わる諸問題と解決に向けて~

【趣旨・ねらい】

近年、自然災害が以前にも増して頻発し多様化している。災害による医療設備の喪失や医療物資の不足により十分な医療が行えない状況の経験を通して、新たな課題が見えてきている。具体的には、①災害派遣医療チーム(DMAT)・災害派遣精神医療チーム(DPAT)による迅速な支援、②多職種による人的支援、継続的な医療提供、③医療/地域のネットワークや災害対策医薬品供給車両などを活用した物流支援、といった観点からの対応が重要となる。てんかん患者の場合、災害時の生活環境の変化やストレスに加え、医薬品の不足によるてんかん発作の増悪や重積状態を誘発する状況も想定される。本セミナーにおいては、てんかん医療においてより質の高い災害対応を行うために、災害時の協働・連携のあり方について多職種の立場から検討してみたい。

(企画担当:広島大学病院てんかんセンター、広島大学小児科 小林 良行)

- LS4-1 熊本地震時の救命救急活動と対応について -災害がてんかん患者に及ぼす影響-
独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター 看護部 沖田 典子
- LS4-2 DPAT活動と災害時におけるてんかん患者への対応
獨協医科大学埼玉医療センター 救急医療科 五明 佐也香
- LS4-3 災害時の医薬品供給体制
岡山大学医歯薬学総合研究科 災害医療マネジメント学講座 渡邊 暁洋